

●「裏路地探険」参加募集

平成 24 年 10 月 20 日(土)
10:00 ~ 12:00

「柴山かに」の町を歩く
香美町香住区 柴山港周辺

* 実施日の10日前までに、18
ページ掲載のT2編集部へ、
住所・氏名・年齢・電話番号・
「裏路地参加希望」とお書きの
上、ハガキで申し込みください。
開催は午前中、現地集合・現
地解散となります。申込締切日
後、案内を参加ご希望の方へ
送付致します。



「ふくち山、いつし、みや津」と書か
れた古い道標(左)。大正9年に設
置されたといわれる道路元標(右)
は、道路の起終点を表す。市町村
ごとに、役場といった中心地に置
かれた。

大蔵村役場
があった場所

道標と道路元標



昭和40年の台風で流出し、架け替
えられた糸井橋。円山川沿いにある
ことから、水害も多かったという。



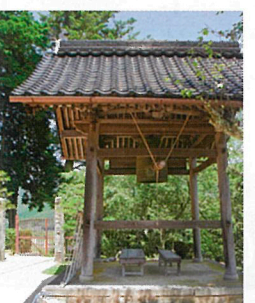
大蔵こども園の横に設
置されている大蔵村じ
ろはったんの看板



「じろはったんせんべい」
や「じろはったん米」を
販売するなど、村おこし
に取り組んでいる。

山町大蔵地区(宮田)は作者が生

「明石から汽車に乗って、はじめ
て、山陰線の養父駅でおりた。ち
いさな、さびしい駅やった」
これは知的障害のある青年を
中心に、心のふれあいを描いた童話
『じろはったん』の冒頭の節。物語
は語り手である「はな先生(わた
し)」が駅を降り立った、昭和3年
から太平洋戦争までを描く。但馬
の方言で書かれた作品は、その時
代の風景が目に見え、ふよふよと
代々の風景が目に浮かぶようである。
じろはったんは知的障害のある青
年だが、優しく純粋な心の持ち主。
子どもの人気者である彼を、村の
人々は温かく見守っていた。神戸か
らやってきた疎開児童にも、優しい
心で接するじろはったん。作者であ
る森はなさんは、こうした心のつな
がりを書きたかったと話している。



法泉寺の鐘つき堂はじろはった
んお気に入りの場所。物語はこ
の場所ではな先生が孫に語りか
けるところから始まる。



3階建てのモダンな旧道沿いの屋敷(左)は地区の地主
であり、かつては大きな米蔵も建っていた。旧道沿い
には大蔵地区の中心部として、旅館や商店が軒を並べ
ていた。また、円山川に近く、水運も発達していたそう。



「蟹追いて 授業中なるに
帰ります」。境内にある森
はなさんの句碑。



3階建てのモダンな旧道沿いの屋敷(左)は地区の地主
であり、かつては大きな米蔵も建っていた。旧道沿い
には大蔵地区の中心部として、旅館や商店が軒を並べ
ていた。また、円山川に近く、水運も発達していたそう。



物語の中で神戸の疎開児童と石野先生が滞在
した法泉寺・庚申堂(上)。戦後、寺では日曜学
校が開かれ、子どもたちに人を慈しむ大切さ
が説かれていた。案内役の福山さん(右)は「大蔵の
人は昔から気性が穏やか。心やさしい風土が
物語を作ったんじゃないか」と話す。



観音堂として登場する宮田の氏神である若宮神社。
ツバキが群生しているから、ツバキ神社とも呼ばれて
いる。最近では桜祭りも開催。昔から子どもの遊び
場であり、秋祭りでは夜に子ども相撲が奉納される。
かつてはかがり火を焚いて行われていた。

裏路地探険

「じろはったん」の舞台を歩く／朝来市和田山町宮田

童話『じろはったん』の舞台となった心優しく村
高台の寺院やお社、円山川沿いの堤防道…
物語に登場する但馬の原風景が目に見え

「明石から汽車に乗って、はじめ
て、山陰線の養父駅でおりた。ち
いさな、さびしい駅やった」
これは知的障害のある青年を
中心に、心のふれあいを描いた童話
『じろはったん』の冒頭の節。物語
は語り手である「はな先生(わた
し)」が駅を降り立った、昭和3年
から太平洋戦争までを描く。但馬
の方言で書かれた作品は、その時
代の風景が目に見え、ふよふよと
代々の風景が目に浮かぶようである。
じろはったんは知的障害のある青
年だが、優しく純粋な心の持ち主。
子どもの人気者である彼を、村の
人々は温かく見守っていた。神戸か
らやってきた疎開児童にも、優しい
心で接するじろはったん。作者であ
る森はなさんは、こうした心のつな
がりを書きたかったと話している。

「じろはったんはモデルがいて、村
の古老から話を聞いたことがあ
ります。知的障害の子どもので
す、村にこのような子が生まれる
と、神の使いとして大切にされた
です」とは、地元の足立さん。
現在、地元では「じろはったん」
の心のやさしさ、思いやりを軸とし
た村づくりを進めている。春には
4回目となる「じろはったんウォ
ーク」を開催。物語そのままに都市
部との交流も積極的に行っている。
また、作者が生前に居を構えて
いた加古川市の市民団体が「森は
なの伝記を『NHK朝ドラ』の会」
を発足。朝来市も賛同し、署名は
6万人を超えたという。「物語の
テーマである慈しみの心を、たくさ
んの人に知ってほしい」と、大蔵自
治協議会の森下会長は話す。
現代人が忘れつつある心のふれ
あいを求めて、物語の舞台を歩い
てみてはどうだろう。

「ここからは、村がひと目に見え
たせる。じろはったんは、この鐘
つき堂の石段が、すきやうた。」
その言葉通り、寺からは大蔵小
学校が望める気持ちのよい場所だ。
兵隊に行く親友・新やんととの別
れ、大好きだった石野先生と疎開
児童との別れ…。鐘つき堂の石段は
いつも重要な場面で登場する。きつ
とはなさんも、子どもの頃からのお
気に入りの場所だったのだから。
庚申堂(物語では薬師堂)の裏
手に登場する「泰山木」は実際に
はないが、よく似た葉を持つ大木が
そびえている。じろはったんは戦死し
た新やんを弔うため、泰山木の葉で
作った舟を香住の海に流した。木蓮
の仲間、甘い香りがするそうだ。
「じろはったんはモデルがいて、村
の古老から話を聞いたことがあ
ります。知的障害の子どもので
す、村にこのような子が生まれる
と、神の使いとして大切にされた
です」とは、地元の足立さん。
現在、地元では「じろはったん」
の心のやさしさ、思いやりを軸とし
た村づくりを進めている。春には
4回目となる「じろはったんウォ
ーク」を開催。物語そのままに都市
部との交流も積極的に行っている。
また、作者が生前に居を構えて
いた加古川市の市民団体が「森は
なの伝記を『NHK朝ドラ』の会」
を発足。朝来市も賛同し、署名は
6万人を超えたという。「物語の
テーマである慈しみの心を、たくさ
んの人に知ってほしい」と、大蔵自
治協議会の森下会長は話す。
現代人が忘れつつある心のふれ
あいを求めて、物語の舞台を歩い
てみてはどうだろう。